

## な か ま

発行

佐倉市立中央公民館  
な か ま 編 集 係〒285-0025  
佐倉市 錦木町 198-3  
電話 (043) 485-18012 ページ 一人暮らしの母 ..... 澤谷 泰子 なまず ..... 鎌田 正弘  
3 ページ 私の顔が母の顔? ..... 小出 洋子 夢が広がる井野長割遺跡 ..... 本西 和雄

## 陸軍が戦艦に乗って

長 谷 川 忠 雄

昭和十九年七月、私はチチハルの山砲連隊から、南方派遣の動員がかかった新京の歩兵連隊に転属となった。

この連隊に着くとすぐ出発することになったが、どこからどんな船で出発するのか一寸気になっていた。数日後、広島県呉の軍港に到着した。そして、部隊は想像もしなかった戦艦の金剛に乗ることになった。

陸軍が戦艦に乗るのである。一般の者は、戦艦などは写真で見ることはあっても、実物を見、乗ることはまず無かったと思う。艦の中の通路は思ったより狭く、所所に防水の柵があつて歩きにくいが、水兵たちはこれを上手に避け駆足で行動をとっていたが、司令室への階段は幅が広く赤い絨毯が敷かれており、立派なものであると思つた。

夜、入浴させられたが艦では水を大切にすし、まして大部隊の入浴だから大変、洗い桶一ぱいの湯での入浴である。

翌朝、部隊に甲板へ出る許可があり、甲板に出て驚いた。この艦の右側に大分離れてはいるが、戦艦大和と武蔵が縦に並んでおり、この艦の後ろには戦艦長門がつづきこの四隻の戦艦を守るように、巡洋艦、駆逐艦等が囲んでいた。総計三十二隻みごとな、大艦隊であつた。

ただ一隻の航空母艦が取り残されていたが、載せる飛行機が一機も無いからだということであつた。  
よい天候に恵まれ、大洋に出た大艦隊は威風堂々たるもので、我が乗っている戦艦金剛も大きいのだが、大和、武蔵は遥かに大きく見えた。

進行中この大きな戦艦を見ていると訓練中なのである。大きな大砲の砲身が上下前後左右スムーズに動いていた。戦闘に入った時には、どんなに大きな砲弾が飛び出すのだからと想像もできなかった。  
また小さな駆逐艦が、大変早い速度で進行中の大艦隊の周囲を哨戒しながら進んでいた。

呉の軍港を出発して二日目の夕方、艦隊は沖縄県の中城湾に到着し、わが部隊は戦艦から降りたが私にはこれから先はどこへ行くのかわからないままだつた。

最近、戦艦大和の人気があつて、映画になつたり実物大の模型が造られたりしているようだが、あの素晴らしい勇姿を見れば誰でもわかると思う。

我々は戦艦金剛の甲板上で、訓練中の大和を見たりしながら短時日、行を共にしたのだからその思い出は特に強いものがある。

(編集委員)

## 一人暮らしの母

電話のベルの音、急いで受話器をとる、綺麗な優しい声、母「私よ、おはようございます」

私「おはようございます、元気そうね」

母「まあまあよ、りんこの美味しい時期になったわよね」私「そうね」

母「私毎日食べているの、貴女も食べている、皮はどうしている」

私「食べているわ、皮は捨ててしまうわ」

母「もったいないわ、皮と芯はよく洗って、カップ一杯強のお水を入れて煮るのよ、まあステーキなピンク色のジューズになるの、そこにオリゴ糖を少し入れて頂くと美味しいわよ、やって御覧なさい風邪予防にも、お肌にも、なにより元気が出ますよ」私「聞いているだけで美味しそう」電話で話をしている母

は九十歳にならんとしている、娘は還暦を過ぎた、遠く離れて一人でいる母のことはいつも気になっている、しょっちゅう電話で話をしている。ありがたいことに、年齢を感じさせない、とても高齢の人と話しているとは思えない。未だにいろいろと生活の知恵を与えてもらっている。

母はお料理や手芸が大好きで沢山のことを教えてもらった。幸せなことに目が良くて、夜休む前に三〇分程本を読み、日記を書いて一日が終わるそつだ。この年齢になっても外出する時のお洋服のコーディネートには時間が掛かるそうだが、必ず出かける前日にちゃんとやっておくようにしているのよと話していた。

私もいつまで生きられるなんて考えたこともないけれど、母みたいに年を重ねられたら最高だ、電話で話しているとベストフレンドと話しているような錯覚を覚える。

(並木町 澤谷 泰子)

## なまず

マンションの耐震強度偽装が大きな社会問題となつていますが、専門家は旧耐震基準で建てられた木造住宅も、震度六弱で倒壊の危険があると指摘しています。我家も該当するのでしようが、人生七十歳を過ぎれば、丸もうけと思つて何もしていません。

しかし、息子はせつせと転倒防止のマット等を買つてきては、家具の下に差し込んでいます。私がテレビの位置を変えようとして、抱えあげたところ、下の台まで持ち上げてしまいました。

先日、鯰をペットにしている人をテレビで見て、思い出しました。大変古い話ですが、月刊建設という雑誌に東京都の災害対策について書いたとき、鯰のことにもふれました。

当時、鯰は葛飾区にあった水産試験場で飼育されていたのです。二つ水槽があり、ひと

つの水槽には日本の鯰、もうひとつにはアメリカの鯰が入っていました。どちらかの鯰が夜行性なんです。要は日本の鯰が寝ている間はアメリカの鯰が活動し、アメリカの鯰が寝ている間は日本の鯰が活動しているので、昼夜にわたつて、観察することが可能なのです。

ある日、水産試験場から鯰が騒いだという連絡がありました。絡して待機していましたが、ありました震度三の地震が。さあ、次の地震で鯰がどんな行動をとるのか胸わくわくです。きました震度四の地震が。早速、水産試験場に問合せたところ、鯰は少しも騒がず静かにしていたということでした。地震の予知は難しいです。

私が知っているのはここまです。災害対策の仕事も五年になりましたので転勤です。

(上座 鎌田 正弘)

## 私の顔が母の顔？

鏡に写る自分の顔が、近頃母に似てきてびつくりします。小学校の運動会の時は、いつも稲荷寿司、風邪をひくと甘い卵酒、暑い夏には、しその葉を付けて焼いたおにぎり、美味しかったなあ。

遊んでいて足に釘を刺して泣いていた時、高校受験や就職試験の時など母は、「あんとんねえ あんとんねえ」と声をかけてくれたっけ。(方言で大丈夫だよということです)。「あんとんねえ」の言葉には、何度も助けられました。これからも私には大切な言葉だと思います。

会えなくなつて七年になりますが、夢にもでてこない母です。鏡の中の自分の顔に、母を思い出しました。父が戦死した為苦勞して育ててもらったことに感謝しています。娘家族と遊びに出掛た折りに、孫にむかつて娘の名前を

呼び孫に笑われてしまうことがあります。上の孫が長女に

下の孫が次女に、フンイキがよく似ているのです。孫といると、自分がまだ娘達と遊んでいるような気持ちになつてい

ることに、笑つてしまいますが、心の中では、「ボケたかな」つて正直不安になります。娘は子育ての真最中ですが、

人生を振り返る時がきたら、私のどんな顔や言葉を思い出してもらえるのかしら…。

鏡の中の自分の顔から母を見ている私、不思議な気持ちになりました。

親から子 子から孫へと人生のバトンを繋げていけることに幸せを感じます。娘や孫に残せるものないから楽しいこと探して、笑つて笑つて 笑いじわをつくつて「ハツハハア」の声と一緒に人生のバトンを渡していきたいものです。

(江原台 小出 洋子)

## 夢が広がる

### 井野長割遺跡

井野に移り住んで十七年になります。改めて土地の登記簿を見てみると、地名は井野字長割になっています。目の前

にある井野小学校周辺の高い森が井野長割遺跡です。一昨年十一月に国の文化審議会から文部科学省に国指定

史跡として答申されました。縄文時代後期から晩期(約四千年前から三千年前)の遺跡です。私たちの住んでいる佐倉を含めて千葉県一帯は縄文時代から人の住みやすい土地だったようです。この遺跡は人為的に土を盛った山がドーナツ状に点在する「環状盛土遺構」が特長で縄文時代に人々が都市計画を持ち緻密な社会構造を持つていたことを物語る貴重な遺跡とされています。

今まで縄文時代の人々は食べ物や求めて移動生活していたと考えられていましたが調

査の結果、一定の場所に留まつて生活をする、拠点集落の跡であることが確認されました。出土された大量の土器の中に、容器としては用をなさない「異形台付土器」が目撃を集めました。さまざま考察から祭祀用器と考えられています。国が保有することになり、国立歴史民俗博物館に保管されています。

昨年、遺跡が国指定史跡になったことを記念して特別展が開かれ、早速見学に行ってみました。「異形台付土器」を見るのが第一の目的でした。思っていたより小さいものですが、数千年前の土器とは思えぬ美しいもので感動しました。佐倉市では井野長割遺跡周辺の必要な土地を公有化し、史跡公園として市民の歴史学習の場として活用する計画とのことです。何年後になるかわかりませんが、その場に立てることを今から楽しみにしています。

(井野 本西 和雄)

## 6月の黒板

### 『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

**[原稿規定]** 字数 650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

**問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)**

URL <http://www.city.sakura.chiba.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

### さくら道



おぶかい 生谷橋周辺の田植えも終りのどが長閑さが増してきた。しかし、手放しで喜べない歓迎されざるスポットが、その橋の近くにある。そこはごみの不法投棄が、近辺の複数の警告板を無視して続けられている場所だからだ。

だが、これが全く無視されている。トラックで運ばれたような粗大ゴミが、市が片付けた翌日には、また捨てられる。誰がやるのか、その量から個人の仕業とは考えにくい。誰がとは特定できないが、少しでも心あるならば、市が片付けた翌日は勿論、長閑な田園風景を損ねるから直ちに、不法投棄をやめようと考えてくれないだろうか。『なかま』の一員として切に訴えたい。

### あがとき



トリノ冬季オリンピックでたった一輪、氷上に咲いたあのイナバウアー。そして野球の世界一を競うWBCのリーグ戦。劣勢だった試合に死闘を繰り返し、心ひとつで最善を尽くす時、運の神様は見捨てないものらしい。天の恵みの春風が吹いた。そして何度も感動をいただいた。さて六月はいよいよサッカー

ワールドカップがドイツで開催される。どんな奇蹟が起きるでしょうか。選手たちは最後の追い込みに励んでいることでしょう。国民が一体となれるチャンスがまた訪れる。今月号、皆様の力作の中に「母と娘」ならではの絆の深い二作がありました。母の日も過ぎ、この第三日曜日は父の日です。「父と子」にも信頼と感謝の深い絆が根づいています。両親への想いを改めてかみしめています。

(渡部)